

西教寺進徳日曜学校だより

2006.11.19 西教寺蔵本通支坊 呉市中央7-7-13
でんわ：21-2798 FAX：21-2795 E-mail:nikkou@saikyoji.net

今日したこと

○紙芝居「鬼の子の角のお話」



宇宙人鬼ごっこ

○磯永童話を読む

安芸南組報恩講
仏の子の集い

12月25日
(月)に決定

「ほとけの子ML」でも書いたのですが、磯永さんは学徒兵としてニューギニアへ送られ、九死に一生を得て帰国、戦争のない日本建設のために芸術家として一生を送られました。だから、戦争をする子どもを育てる改悪教育基本法（衆議院を通過しました）が教えるような愛国心教育ではなく、「世の通念では見捨てられがちな」大切な心、真実を見つめる、本当に人間らしい心を、私たちに語りかけてくれていると思います。先日山口で行われた磯永さんの詩祭には全国から1000人を超える人が集まったそうで、知る人ぞ知る方です（私は知りませんでした・笑）。

今日紙芝居で観た「鬼の子の角のお話」（『おんのろ物語』所収）を読みました。鬼の子の角が生えないのを心配した鬼の両親は、神さまにお願いに行きますが、いつまで待ってもご利益はありません。しかし、神様に言われた鹿が自分の角を使ってくれと言って訪ねてきます。しかし鹿の角では格好がつかません。鹿の欠は牛が自分の大きな角を、猪はキバを、そして「たけのこ」は自分を全部使ってくれと言って訪ねて来ます。皆の親切に喜んだ鬼の父親は、皆かここまで言うてくれたるのに、自分が息子に角をやることに気がつかない。自分がやればよいのだと気づきます。それでは世間体が悪いから私があげます、と鬼のつれあいがいます。いい智慧は出ませんが、考え込んだあげく、一本ずつやろうということになります。ふと見ると、鬼の子ども頭の盛り上がり、そこから角が生えてきていました。よかったよかった、鬼の親子は皆と仲良くなって、みなのために仕事をしました。という話です。

これは「皆が助け合うことが大切」という話だ、いや「人生は越し苦労で悩むことも多い」という話だ、はたまた「神様のご利益の話だ」、感じ方はいろいろあるようです。私は、鬼の親が目の前の悩みにどう向き合っていたか、心の変化・成長に注目しました。最初は、神様にお願いしたりして、（自分以外の）誰かに何とかしてもらおうことしか頭にありません。しかし、他人のために尽くす皆の暖かい親切な心に包まれ、そのような生き方に触れていくうちに、他人ではなく自分がしてやればよいのだと気づいてゆきます。悩んだり他人に親切にされたり、色々なプロセスを経て、結局、夫婦で自分たちの角を一本ずつやろうと、当初の願いとは別の、それでも納得した解決策を見つけてゆきます。私は、最後に鬼の子の角は生えなくても、鬼の夫婦は、皆に感謝し、他人を支えることの大切さを学びとって、きっと幸せに暮らしてゆくことができたのではないかと感じます。

ちゃんと努力して勉強している者をだし抜いて、カリキュラムを変えてまで、自分の生徒をいい大学にいれようとする大人、負けるな蹴落とせ、ばかり言う大人、波風を立ててはいけない、長い物には巻かれておくのが一番と保身走る大人を見て育つと、どんな子どもが育つでしょう。逆に暖かい親切な人や心に触れていると、誰がいうともなく、自分からその大切さに気づいてゆく、成長してゆく世界があるのだと思います（注①）。昨今の子ども達の心の荒廃は、私たち大人が、いかに生きていくかが問われているのだと思います。

【注①】カウンセラーのロジャースはいいいます。「これは徐々に形を成し、検証されてきた仮説であるが、個人は自分自身の中に自己理解に向かい、そして自己概念と自己の態度を変容し、自主的行動を発展させて行くところの果てしない資源を蔵しており、そして、もし一定の促進的な心理的態度をもつ雰囲気や備わりのさすれば、これら資源が開放されて行くであろう」「いかなる人も無条件の信頼と尊敬に値する」
(C.ロジャース『人間の潜在力』)

この次は、**12月2日(土)9時~**です。

その次は 12月25日(日)「報恩講仏の子の集い」です。17日(日)はお休み

童話劇 **天狗の火あぶり**

劇団はぐろま客公演
磯永秀雄の世界

日時 12月6日(水) 18時30分~
場所 呉市民会館